

「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区(案)③

⑨石川県 金沢市

金沢大地／アジア農業／金沢農業

- 米、麦、大豆、蕎麦、野菜等を有機栽培。経営面積337haの日本最大規模の有機農業経営体。
- 伝統製法にこだわった調味料、豆腐、納豆、スイーツ等、100品目超の加工商品をインターネットや直営店で販売。世界農業遺産(GIAHS)認定を契機に更なるブランド化を推進。
- 市民出資により太陽光発電システムを導入、売電収益の一部により耕作放棄地を再生。



有機大豆のほ場



加工商品



耕作放棄地再生後、有機蕎麦の収穫

⑩三重県 多気町

せいわの里

- 地元の女性が中心となって、農村レストランと体験工房・加工施設を拠点に地域活性化。年間約6万人が来店。
- 地元食材の加工品(豆腐、味噌等)を販売。学校給食や老人用弁当を納入し、地産地消と食育の循環を確立。
- 20～80歳代の男女が厨房や畑で共に働き、世代を超えた交流を促進。



農村レストラン遠景



農村レストラン店内



加工商品

⑩愛知県 南知多市

しのじま 篠島お魚の学校

- 特産品であるえび、しらす、わかめ等を活用した新商品を製造・販売。南知多町で初の6次産業化認定を取得。
- 魚料理体験による魚食普及活動を実施。家族のつとめた魚貝を都市住民に調理方法を紹介しながら販売。
- 漁業体験や小学生の宿泊体験による交流促進。



しらす加工体験



魚料理体験



大アサリ

⑪大阪府 泉南市

ハートランド

- 株式会社が障害者雇用促進を目的とした特例子会社を設立することによる「障害者を主人公」とした農業ビジネスモデルを確立。
- 障害者の職域として「仕事のすそ野の広い農業」に着目。延べ約100名／週の障害者が作業参加。
- サラダほうれん草など葉菜類を水耕栽培。操業7年目を迎え、販路を確保。更に、高付加価値商品の加工・販売にも取組み。



ほうれん草の水耕栽培



収穫



コンテナ清掃

「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区(案)④

⑬奈良県 奈良市

植村牧場

- 障害者14名(うち住み込み9名)、高齢者4名を常時雇用して牧場を経営。障害者が主戦力。
- 奈良県で最も古い牧場。創業当時の木造茅葺の牛舎で約30頭の乳牛を飼育し、近隣に牛乳を配達。
- 自家生乳でアイスクリーム等を製造、販売。県、大学、近隣農家と共同で「奈良漬と大和やさいを使ったアイスクリーム」を開発。



牛舎



乳牛の餌やり



アイスクリーム製品

⑮島根県 邑南町

邑南町観光協会

- 観光協会が地元産品を使ったイタリアン・レストランを運営。地産地消率は95%。
- このレストランを拠点に、都市在住者を対象に、農業から料理、店舗経営までを一貫して行える「食の人材育成」を実施。
- シェフ、パティシエなど含め38名のUIターン者を誘致。新規住者の目線で地域の魅力を掘り起こし。



地産地消レストラン



お菓子づくり教室



「食の人材育成」の様子

⑭和歌山県 那智勝浦町

色川地域振興推進委員会

- 新規定住希望者や農業実習希望者などの受入を、9集落が地域ぐるみで一体的に対応。地域毎に定住世話人を配置。
- 田舎暮らしに関心のある方に2泊3日の民泊、農業体験を提供。ホームページや地域内新聞等による情報発信。
- これまでに約180人が新規定住。



体験・交流施設を建築



農業体験交流



移住者の子どもが活躍する運動会

⑯広島県 庄原市

粟田川流域農地・水・環境を守る会

- 大阪や広島の消費者グループと、田植交流会や収穫感謝祭を実施。田植太鼓や田植歌を歌うお年寄りとも交流。
- 地元および都市部の子どもを対象にアイガモ農法による農業体験等を実施。
- 品質にこだわった米作り、安全性の可視化、消費者への食育などを行い、ブランド化を確立。



春の田植交流会



秋の収穫感謝祭



消費者への食育